

光星伊藤10回決勝弾

春季
県高校野球
第2日

山田高9回痛い逸機

春季県高校野球選手権は第2日の16日、八戸市と七戸町の3球場で2回戦を行った。実力校同士のライバル対決となった八戸学院光星―青森山田の好カードは延長10回、八学光星の伊藤巧将が決勝本塁打を放ち、3―2で熱戦を制した。今年春の選抜高校野球に出場した八戸西は、前日サヨナラ勝ちで勢いに乗る三沢商に3―2で勝利。青森商は先発木村溜斗の力投が光り、木道を破った。このほか八工大、八工大二、聖愛、東奥義塾、五所川原が勝って夏のシード校8校が決まった。17日は試合がなく、18日の第3日は八戸市で準々決勝4試合を行う。（本紙取材班）



【評】1点を追う八学 翼ボール際に決勝の本塁打を放ち、三塁打を放ち、決勝をつけた。光星は九回1死一、三塁打を放ち、決勝をつけた。から内野ゴロ併殺崩れの先発森、2番手横山と継投し、再三のピンチをこえた延長10回、伊藤が左翼ポール際に最少失点で切り抜

頼れる2番 接戦にけり

ヒーロー

息詰まる接戦に決着をつけたのは、八学光星・伊藤の左翼ポール際への一撃だった。高く上がった飛球を後押しす

るよきに「入れ、入れ」と叫ぶが、元々は捕手、敗退後、んだ後にカツボクス、「強 仲井監督に再コンパウトを志す。課題の打力向上に努力した。試合後、気め、62kgだった体重を70kgに増量。「軸の右脚に力をつけるため、死満塁の窮地を切り抜け、横山がサインに首を振らず、



【八学光星―青森山田】▷写真上…延長10回表、八学光星1死、伊藤が左翼ポール際に決勝点となる本塁打を放つ。捕手・酒井▷写真下…延長戦の末、青森山田を破りベンチを飛び出す八学光星ナイン＝七戸町営球場

も腰の回転も安定した。信頼してくれたのがうれしく、ムネも認めると飛距離は格段に伸びた。また二塁から打者を見た経験が、リード面に生きるよう。この日は森、横山の2投手を巧みにリード。九回には1死満塁の窮地を切り抜け、横山がサインに首を振らず、